

担当教員の研究

都市とまちを
網羅的に扱う領域

私は民間企業等を経てから行政機関にて、都市計画実務と道路行政実務を長年実践してきました。民間・行政・大学と民官学を渡り歩き、法律・制度・事業の一連の仕組みを実践してきた経験を基に、理論と実践の融合を目指しています。

私の専門分野は大きく2つ、公共政策領域とまちづくり領域になります。都市政策や都市計画をはじめとする「行政施策」と、地域経営や市民参加などの「地域マネジメント」という、行政側でもあり市民側でもある、つまりは行政と市民の間に立つための領域と捉えることもできます。そのため、研究・実務共に最も意欲的に取り組んだ内容は、福祉のまちづくり（ユニバーサルデザインを目指した取り組み、手段としてバリアフリーや高齢者の健康など）と住民合意の為にプロセスデザイン（合意形成理論）になります。このような実践領域は、海外を中心に学問としても成立しており、地域政策に不可欠な要素となります。

人・移動・空間をデザインする
方法を多角的に分析・評価

人間の生活環境と経済活動を考え、「住みよい都市の計画理論、バリアフリーやユニバーサルデザイン」の理論と実践、市民参加の方法



論とコミュニケーションデザインの実践、空き家・空き地を増やさないためのコミュニケーションデザイン」をテーマに、人・移動・空間をデザインする方法を研究しています。多様性と相違性を取り上げる領域でもあるため、様々な分野の先生方と学際的な研究を行ったり、司法書士の先生方との連携による「空き家・空地対策」に関する活動を展開したり、都市政策を専門とするコンサルタントとの「計画理論づくりの研究」や、「集約・コンパクト化する都市と交通」の課題に取り組みんでいます。また、地域へ入り込み、住民の皆さんと行政を繋ぎコーディネートする役割や、社会福祉協議会と地域が連携するような活動も、地域デザインの実践として取り組んでおり、住民やステークホルダーの合意形成を目指すための活動・研究を行なっています。

長野博一研究室 地域政策学科

誰もが暮らしやすい都市の
仕組みを考えよう!

ゼミの活動内容

自分のキャリアアッププロセスを振り返り、また、民間等を経て東京の区役所で長らく勤務をしてきまして、その間に社会人で博士課程へ進み研究を続け、その後、大学へ移籍し、現在に至ります。長野研究室では、多様性を受け入れ、物事をあらゆる角度から透視し、現場では柔軟に冷静に対応できる、このスキルを得てもらうためにも、課題解決方法の発想力・着想力を養うグループワークや、「問い」と「プロセス」をデザインするゼミを適宜実施します。各自が人間として社会性を伸ばすことを目標に、社会人基礎力をしっかりと身につけてもらいます。さらに、地域へ入り込み、自分の目で見る・考える習慣を持つために、様々な地域でのフィールドワークを実施します。都市政策への参加（協議会や懇談会の聴講）や、まちづくりへの参加（ワークショップや地域づくりの現場）を通じて、ファシリテーションスキルをはじめ、各種調査・分析の方法、まとめるスキル、プレゼン能力等を徹底的に鍛えます。



ジェイン・ジェイコブズ(著者)
サミュエル・ジップ(編者)
ネイサン・シュテリング(編者)
宮崎洋司(訳者)
(2018/12/08)
『ジェイン・ジェイコブズ都市論集
—都市の計画・経済論とその思想—』
鹿島出版会
ジェイコブズの思想と理念は、現在いままさに起きている都市課題を言い当てている内容です、しかもかなり以前から。ぜひ手にとってほしい一冊です。



担当教員の情報
職 位 准教授
専門分野 都市政策、都市計画、地域デザイン、ユニバーサルデザイン、交通政策
担当科目 都市政策論、都市計画学、都市経営論、都市再開発論、初年次ゼミ、グループ研究II、演習

担当教員の研究

多様化するスポーツ

今日のわが国の政治・経済・社会状況はめまぐるしくかつ大きく変化しています。特に、人口減少と高齢化、医療費の増大、運動不足による疾病の増大などの社会状況の変化は、大きな社会問題を招いています。この影響を受け政治・行財政、経済構造など社会のさまざまな分野において従来のシステムの改革が推し進められています。

一方、20世紀以降国際的に急速に普及・発展し、とりわけ1964年のオリンピック東京大会開催を契機に創造的な文化活動の重要な柱として国民の中に広がっていったスポーツは、その存在感をさらに強めています。スポーツがこれほどに注目されている時代はこれまでなかったように思います。

また近年では、競争性を可能な限り排除し誰でも楽しむことができるようにルールが改良された軽スポーツ、ゆるスポーツや近代科学の技術革新の恩恵を受け誕生したニュー・スポーツ、超人スポーツ、eスポーツと呼ばれるスポーツが多くの人々を虜にしています。

さらに健康を意識して、ヨガや太極拳、体操やダンス、エアロビクスなどを行ったり、自然への回帰を求

めてウォーキングや・ハイキング、山登りに出かけたりなど、スポーツはこれまでになく多様化しています。

政策対象としてのスポーツ

このようなスポーツの多様化は、スポーツが健康・社会福祉、教育・社会化、経済発展等社会の広範な領域への貢献が期待されている現れであるといえます。

したがってわが国のスポーツは、文教政策の一分野としてのみ捉えるのではなく、健康福祉政策、地域づくり政策、観光政策、さらには経済政策の一貫として広く対応することが必要であるといえます。

これまで、戦後の国会においてスポーツがどのように捉えられ、議論が展開されてきたのか、またその議論がどのように政策に結実しているのかについて国会議録の分析から考察を行ってきました。

また、地方自治体におけるスポーツにも着目し、都道府県議会におけるスポーツに関する議論の分析も実施してきました。

現在は、これまで実施してきた国会や地方議会におけるスポーツに関する議論の分析をさらに進め、わが国のスポーツ政策が策定されるに至るまでの過程を明確にすることを目指しています。

「異質」なものを「受容」しよう

田中宏和研究室

観光政策学科



担当教員の情報

職位
准教授
専門分野
スポーツ政策学
スポーツ行政学
担当科目
スポーツ政策論
スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ
初年次ゼミ
グループ研究Ⅱ
演習

伊藤亜紗、渡邊淳司、
林阿希子著(2020年)
『見えないスポーツ図鑑』
晶文社



本書は、「目で見ないスポーツのわかり方」や「目に見えないスポーツの本質」について述べられている研究ドキュメンタリーとなっており、「するスポーツ」や「みるスポーツ」に新たな視点を与えてくれる書籍です。

ゼミの活動内容

スポーツは、社会の様々な分野に影響を与え、様々な分野から影響を受けながら存在しています。つまりスポーツを考えるにはそれを取り巻く現代社会について理解する必要があると思います。

そこでゼミナールでは、現代社会の諸問題に関連した書籍を読み、様々な視点から理論的に理解するのと同時に、議論を通して理解を深めていきます。

そしてそれを踏まえ私たちは、スポーツにどのようにかかわれば、スポーツの価値や意味をどのように理解すれば、様々な現代社会の諸問題を解決することができるのかについて考えていきます。

また他大学との交流や学外イベントの参加を積極的に実施し、様々な価値観や見識を身につけてほしいと思います。

このような活動を通して最終的に自分が、興味関心を持ったテーマについて卒業論文として纏めていきます。卒業論文は、学校教育の集大成となるものです。しっかりと取り組んでほしいと思っております。

ゼミナールの活動、卒業論文の執筆を通して「コミュニケーションする力」、「想像する力」、「あきらめない力」を身につけていきましょう！

